

新たな「姉妹」を紹介します

海老名市に遊びに行きませんか

登別市と神奈川県海老名市の交流は、両市の姉妹都市である宮城県白石市の紹介により始まりました。その後、平成23年に3市で『トライアングル交流宣言』に調印し、さまざまな交流を通じて絆を深め、5月18日(月)には、姉妹都市提携の盟約を締結しました。

今号では、姉妹都市・海老名市の特色やまちの魅力を紹介します。



宅地開発と人口増加

海老名市は神奈川県ほぼ中央に位置し、西は相模川を隔てて厚木市に、北は座間市、東は大和市と綾瀬市、南は藤沢市と高座郡寒川町に接しています。

南北に長い地形の中央には、『相模横山九里の土手』と呼ばれる相模丘陵の西崖が縦断し、西部の平地と東部の丘陵地帯に大きく二分され、丘陵地帯では宅地開発が進み、人口の増加が続いています。

広がる田園風景

農業を中心に発展してきた海老名市。市内には、『海老名耕地』と呼ばれる水田地帯が広がり、実が大き



▲稲が生い茂る夏の田んぼ (海老名市提供)

米作以外にも、露地栽培ではキャベツ、ジャガイモ、ナシなどが、温室栽培ではトマト、イチゴ、マスクメロンなどが作られています。特にイチゴは神奈川県一の出荷量を誇り、

くて味のよい神奈川県の推奨米『さとしまん』などが収穫されます。

今と昔が寄り添う海老名駅周辺

海老名市には、JR相模線など3路線があります。市内で唯一その全てを乗り入れている海老名駅は、1日平均で20万人以上の人が乗降する市の交通拠点の一つです。

駅周辺に目を向けてみると、国指定の史跡『相模国分寺跡』があります。相模国分寺は奈良時代に建立されたもので、現在では、跡地が歴史公園として整備され、市民の憩いの場になっています。

一方、同駅近くには、巨大な複合商業施設も建設されています。開業後1カ月で200万人以上が来場した同

イチゴを使った特産品『いちごわいん』や『いちご酢』は大変人気があります。

姉妹都市への歩み

平成22年

4月 海老名市から登別市に対し、消防車両5台を寄贈

4月 3市間で『危機発生時における相互応援に関する協定』を締結

7月 海老名市で登別物産展を開催(以降、毎年開催)

10月 登別市から海老名市に対し、ポニー2頭を寄贈

平成23年

4月 3市間で『トライアングル交流宣言』に調印

9月 3市で小学生絵画作品交流展を開催(以降、毎年開催)

10月 海老名市民訪問団が登別市を訪問(以降、毎年訪問)

10月 海老名市で少年野球交流大会を開催(3市が参加)

11月 白石市で3市合同職員研修を実施(以降、持ち回りで毎年実施)

平成24年

4月 海老名市で、登別ブランド推奨品などの販売や観光PR拠点として『湯鬼神』を出店

9月 登別市で海老名物産展を開催(以降、毎年開催)

10月 海老名市中学生が登別市を訪問

11月 登別市の大停電に対し、白石市、海老名市から救援物資を受領